



編集・発行
県南教育事務所



「研修の大切さ」

中島村教育委員会教育長 面川 三雄

本村において、令和4年11月22日（火）と11月25日（金）に2つの研修会を実施しました。22日は県指定「道徳教育総合支援事業 道徳教育地区別推進協議会」（中島中学校）、25日は「中島村学力向上推進研修会」です。道徳教育の講師は東京学芸大学特任教授永田繁雄先生。永田先生は元文部科学省初等中等教育局教科調査官（道徳教育担当）。村研修会の講師は秋田大学名誉教授阿部 昇先生です。阿部先生は秋田県教育委員会の学力向上検証改善委員会委員長を12年間務めました。村教育委員会として、研修会を通して村内の教職員の方々の資質向上の一助となればと考え講師選定にあたり、道徳教育の先駆者である永田先生と連絡をとり、7月と11月に直接ご指導をいただける機会に恵まれました。村内の学力向上研修会の阿部先生には今年で3回目のご指導をいただきました。

本村は幼・小・中12年間連続した教育の推進を掲げ、研修会においては幼稚園の先生方も含め全員参加し2つの研修会の授業を参観しました。教育委員会として、講師の研修費及び管理職や一人職の研修のための予算確保に努め、対面で話を聴いたり先進校訪問したりして研修を通して学習指導や学級づくり、学校運営等に生かしてほしいと思い、実施しています。二つの研修会の中で、

永田先生から「子供の主体性を引き出す教師の【伴走者】としての役割」として、「支援的な問い」と「仕掛的な問い」、「問題意識を動かし【納得解】を生み出すテーマ追求型授業を軸にする」という講演があり問題意識こそが主体的な追求を生み出すと話がありました。

当日の中島中学校では1年1学級、2年1学級を公開し、2つの学級とも自分の思いを他の人と話し合えるよう「伴走者」を意識した授業が見られました。

村内の学力向上研修会では阿部先生より、令和3年度は「探究型授業を構築するための方法」の一つとして「内言の外言化」の話がありました。すべての子供に「内言の外言化」を保障することが授業づくりのポイントの一つであると。令和4年度は「助言の役割」「子供の主体性を重視した振り返り」等について話がありました。

当日は6年生の国語「やまなし」を村内全員で参観し、子供達がペアまたはトリオで積極的に意見交換し、「内言の外言化」が保障された授業でした。

道徳の授業、国語科の授業とも文部科学省の「主体的・対話的で深い学び」「協働的な学び」に結びつくものであり、講師の先生の話から研修の大切さを改めて感じました。今後も子供の学び・育ちに結びつく研修を進めたいと思います。

受賞おめでとうございます～令和4年度 教育・文化関係表彰～

叙勲

○春の叙勲（旭日双光章）
現（一社）白河医師会会長 関 元 行

文部科学大臣表彰

○地方教育行政功労者表彰
元棚倉町教育委員会委員 八槻 浩子

○優良PTA表彰
白河市立東北中学校PTA

○優秀教職員表彰（団体）
棚倉町立棚倉小学校教職員

○キャリア教育
棚倉町立棚倉小学校

県教育委員会表彰

○社会教育功労者表彰
西郷村社会教育委員長 花安 紀夫

○学校保健功労者表彰
元白河市立東中学校薬剤師 有賀 裕子

○教育功労者表彰
白河市立白河第二小学校長 井上 久仁夫
棚倉町立棚倉小学校長 鈴木 雅人

○教育文化関係表彰（優秀教職員の部）
白河市立大信小学校教諭 小松 莊子
棚倉町立棚倉小学校教諭 佐藤 真理
塙町立塙小学校教諭 森 裕美子

○永年勤続教職員表彰 小・中学校38名 県立学校3名

○教職員研究論文（団体）
特選 棚倉町立棚倉小学校
入選 塙町立塙小学校

○ふくしまっ子ごほんコンテスト学校賞
白河市立五箇小学校 塙町立笹原小学校
白河市立表郷中学校

○食育推進優秀校表彰
優秀賞 白河市立白河中央中学校
優良賞 白河市立五箇小学校 白河市立大信中学校



※敬称略

○ふくしまっ子元気大賞表彰

矢吹町立三神小学校 泉崎村立泉崎第一小学校

○ふくしまっ子体力向上優秀校表彰

白河市立白河第一小学校 泉崎村立泉崎第一小学校

西郷村立川谷中学校 棚倉町立棚倉中学校

○県学校歯科保健優良校表彰

○特別表彰 西郷村立羽太小学校 西郷村立米小学校

○最優秀賞 白河市立白河第一小学校 西郷村立小田倉小学校

○優秀賞 西郷村立羽太小学校 白河市立信夫第二小学校

○努力賞 白河市立釜子小学校 中島村立滑津小学校

西郷村立熊倉小学校 白河市立五箇中学校

中島村立吉子川小学校 西郷村立西郷第二中学校

白河市立東中学校 中島村立中島中学校

中島村立五箇小学校 白河市立五箇小学校

○奨励賞 白河市立五箇小学校 棚倉町立高野小学校

○県学校保健会表彰

○学校保健功労者

学校医 三浦 義人（白河市立五箇小学校・みさか小学校）

鈴木 信夫（白河市立五箇中学校）

学校歯科医 圓谷 秀昌（白河市立白河第三小学校）

安藤 昌隆（白河市立小田倉小学校）

片野 志隆（白河市立五箇小学校）

吉成 裕一（白河市立みさか小学校）

鈴木 重雄（白河市立表郷小学校）

渡邊 友彦（白河市立白河南中学校）

○学校保健会感謝状
（前）学校歯科医 若谷 和夫（矢吹町立矢吹中学校・三神小学校）

○令和4年度第25回よい歯の幼稚園・こども園表彰

○奨励賞 泉崎村立泉崎幼稚園

○県学校関係緑化コンクール

○学校環境緑化の部【中学校部門】
公益財団法人福島県都市公園・緑化協会理事長賞
白河市立白河中央中学校

夢と希望を育む県南の教育の推進

～学校教育課 令和4年度事業の成果～

生徒指導と道徳教育の充実

今年度は、小学校28校と中学校18校への生徒指導訪問を行いました。特に、不登校や不登校傾向の児童生徒に対して、一人一人の児童生徒理解に基づいた援助を組織的に対応いただいている実態を知ることができました。今年度も残すところわずかととなり、新学期の準備を進める時期となりました。新たな不登校の発生を抑える観点から、次のような取組をお願いいたします。

- 小・中学校の連携強化、綿密な情報交換
- 児童生徒のきめ細かな実態把握と人間関係を配慮した学級編制
- 学習・生活習慣づくり、望ましい人間関係づくり
- 校内援助体制の構築（コーディネーターの位置付け、役割分担の明確化など）
- 分かる授業・学ぶ喜びを味わえる授業の実践

入学・進級による環境の変化は児童生徒の心に大きく影響します。生徒指導主事の先生を中心に、取組を見直す機会としていただきたいと思います。

道徳教育の充実については、今年度、中島村立中島中学校の研究推進に基づく地区別研究協議会を行いました。3年ぶりに一日開催とすることができ、授業や道徳教育推進に関する協議を行ったことで、充実した一日となりました。道徳教育の充実は児童生徒の安全安心な生活につながります。各学校において、家庭や地域との連携を図りながら、充実に努めていただきたいと思います。

学力向上に向けて

令和4年度ふくしま学力調査の学校質問紙調査において、県南地区の先生方が児童生徒の学力向上のため学校全体で真摯に授業改善に取り組んでおられることがデータとして客観的に示されております。一方、適切な現状分析を行い教育課程の改善に繋げることにっては不得手であると回答する学校が多くありました。

このことから、全国学力・学習状況調査の活用としては、結果分析を分野や領域などの一面的な課題として捉えるのみならず、課題のあった設問に求められる資質・能力を考察し、必要十分な学習活動を保障することが重要です。そのためにも問題分析によって求められる資質・能力を具体的にイメージし、年間計画や単元構想を見直すことが必要となります。さらには質問紙調査の結果から「主体的・対話的で深い学び」の実現状況について把握し、各学校の現職教育と関連づけながら実践を深めることが大切です。

また、ふくしま学力調査の活用としては、児童生徒一人一人の伸びを確認し、指導・支援の振り返りを協働して行い指導改善につなげること、よい実践を共有し学校力の強化につなげるような体制の構築をお願いします。

以上のことを、各学校において実効性のある次年度の取組として推進していくをお願いいたします。



健康課題解決に向けた基盤づくり

全国体力・運動能力調査の結果、県南地区では、下の表のとおり、小5・中2男女とも、全国・県平均を上回りました。また、昨年度の県南平均と比較すると、中2男女が若干下がったものの、小5男女とも上回りました。

これは、各学校において、体育の授業はもちろんのこと、学校全体で体力向上に向けた取組を工夫して行った成果だと考えます。（具体的な取組事例は、「ふくしまっ子元気大賞Book」をご覧ください。）

しかしながら、肥満傾向児出現率においては、小・中男女全てが、昨年度より増加しました。いまだ新型コロナウイルスの影響は否めませんが、運動・食事・生活習慣を総合的に見直していく必要があります。「自分手帳」を効果的に活用し、健康マネジメント能力の育成を今後も一層進めていただきたいと思います。

	小学5年男子		小学5年女子	
県南合計得点	54.0		56.8	
全国得点・県南比較	52.3	1.7	54.3	2.5
県得点・県南比較	52.1	1.9	55.2	1.6
13県得点比較	52.3	1.7	56.1	0.7
	中学2年男子		中学2年女子	
県南合計得点	41.3		49.1	
全国得点・県南比較	40.9	0.4	47.3	1.8
県得点・県南比較	41.1	0.2	47.3	1.8
13県得点比較	41.6	▲ 0.3	49.9	▲ 0.8

	出現率
小学男子	16.0
(前年比)	2.5
小学女子	12.3
(前年比)	1.5
中学男子	14.9
(前年比)	2.6
中学女子	11.9
(前年比)	1.2

特別支援教育の充実

昨年末に文科省より公表された調査結果から、小・中学校の通常の学級において学習面又は行動面で著しい困難を示す児童生徒の割合が8.8%、高等学校においては2.2%存在することが明らかになりました。支援を必要とする子どもが自分に合った方法で学ぶためには、一人一人に適切な配慮が提供されることが重要です。また、配慮が一時的なものに終わらないよう、個別の教育支援計画に記載し、次の学年や進学先へ引き継いでいくことがさらに重要です。

県南地区では、特別支援学級や通級指導教室はもとより、通常の学級においても計画の作成が着実に進んでいます。活用と学校間の引継に課題があります。そのため、県南教育事務所では、「個別の教育支援計画作成・活用啓発リーフレット」を作成し、年末に各園と各学校へ配布いたしました。リーフレットには、域内の各学校より提供いただいた活用の好事例が掲載されています。ぜひご覧ください、次年度の計画作成にご活用いただければ幸いです。また、次の学年や進学先でも必要な支援が切れ目なく提供されるよう、引継ぎもお願いいたします。



社会に開かれた教育課程実現のために

～コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）と地域学校協働活動の一体的推進～

文部科学省では、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進による地域と学校の連携・協働の構築を推進しています。

また、学習指導要領では、「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、学校は地域との連携・協働を一層進めていくことが重要であり、地域においても、より多くの地域住民等が子どもたちの成長を支える活動に参画するための基盤を整備することが示されています。

令和4年度コミュニティ・スクール及び地域学校協働活動実施状況調査（調査基準日令和4年5月1日）が文部科学省より公表されました。

その調査内容と県南地区の状況を比較すると次のようになります。

① 全国公立小・中・義務教育学校におけるコミュニティ・スクールの導入率（県南地区：52校中29校）

【全国 48.6% 福島県 33.2% 県南地区 55.8%】

② 全国公立小・中・義務教育学校における地域学校協働本部設置率（県南地区：9市町村中8市町村※1）

※1 すべての学校に整備されている市町村数

【全国 69.2% 福島県 73.0% 県南地区 90.5%】

この結果から、全国及び福島県と比較すると、県南地区は2項目とも高くなっています。この結果から、県南地区において、地域と学校がパートナーとして連携・協働するための組織的・継続的に取り組む体制づくりが整ってきたことが分かります。しかしながら、導入・設置

はされているものの十分な協議がなされず形式的なものになってしまっている事例もあるようです。関係者の十分な理解と相互の信頼関係が今後より一層必要となってきます。

～令和4年度矢吹町の取組について紹介します～

【地域学校協働本部の設置】

令和4年度より地域学校協働本部が設置され、地域と学校をつなぐ地域学校協働活動推進員※2（各幼稚園・小・中学校に各1人）を中心とした地域住民の参画が図られています。また、「既存の取組・授業プラスワン」をモットーに地域行事やふるさと学習、学校周辺環境整備など、地域と学校が連携・協働して行う地域に根ざした活動が実施されています。

※2 推進員は、学校運営協議会委員にも任命されています。

【学校教育ボランティア研修会の開催】

年2回、学校教育ボランティア研修会を行っています。

園長・校長・推進員とボランティアが顔合わせを行い、園・学校側のニーズとボランティアとして支援できること等を直接意見交換し、その場でマッチングすれば、次の計画へ生かすといった取組が行われています。



写真：園長・校長・推進員・ボランティアによる意見交換



小学校紹介



「地域とともに広がる笑顔」

白河市立釜子小学校

「子ども、保護者、地域、教職員 みんな笑顔の学校」これは本校が目指している学校像です。

子どもたちは「いじめをしない、無視しない、ふわふわ言葉で、みんな仲良く、釜子小」や「かまこしょう、まはあいつ、こちから、のびのび元気に、あかるい声で、いちにち、さわやか、つながる笑顔」の頭文字をとった「釜子のあいつ」をスローガンに「みんな笑顔の学校」を目指して取り組んでいます。

保護者には、PTAが主体となった漢字検定や英語検定の実施や環境整備のための「グリーンボランティア」としての協力、地域の皆さんには、図書室充実のための「図書ボランティア」としての協力や毎日の登下校の見守りにご協力をいただいております。子どもたちや教職員だけでなく保護者や地域の皆さんが、主体的に学校運営に関わることで「みんな笑顔の学校」につながると感じた1年間でした。

来年度は「もっとみんな笑顔の学校」づくりを進めてまいります。



「創立150周年を記念して」

矢吹町立三神小学校

明治6年1月20日、中野目小学校、三城目小学校の開校が、本校三神小学校の始まりでした。そして、令和5年1月20日（金）に、創立150周年を迎えました。

記念すべき150周年を迎え、PTAの役員を中心に実行委員会を立ち上げ、「創立150周年記念式」を1月21日（土）の授業参観に併せて実施しました。

実行委員会の話し合いの中で、「子どもの思い出に残るイベントにしたい。」という保護者の声がありました。そこで、子どもたちの意見を取り入れ、毎年1月に行っている「凧あげ大会」で、学級ごとに連凧をつくり、「連凧あげ大会」を行うことにしました。

当日は、風にも恵まれ、連凧は、子どもたちの思いを乗せて空高く揚がりました。この凧あげも30年以上続く本校の伝統行事でした。

保護者や地域の方々にも参加していただき、古き良き伝統を引き継いでいくとともに、新たな伝統を築いていくことを子どもたちと誓い、思い出に残る記念式にすることができました。



本年度を振り返って



「初めて聞く校歌」

鯨川村立鯨川小学校
校長 大塚 欣之

本校では、感染症対策のため、しばらくの間校歌斉唱を行っておらず、新任校長として赴任後も校歌を聞くことができませんでした。しかし、6年生が「このまま校歌を歌わないで卒業するかも」と話したことから、何とかしたいと思い、2学期終業式で今年度初の校歌斉唱を行いました。感染症対策のため、オンラインで各教室をつないでの斉唱でしたが、子どもたちの歌声に心が震え今年度一番の思い出となりました。感染症対策は今後も続きますが、子どもたちにとって本当に大切なものは何かをしっかりと考え、対応していきたいと思えます。



「職員室の担任として」

白河市立白河第五小学校
教頭 伊東 恭一

新任教頭として赴任時、校長先生や諸先輩方から、「職員室の担任になる」という言葉を助言としていただきました。私が学級担任として大切にしていたことは、安心して学べる環境づくりでした。担任の力だけではよい環境はできません。児童、家庭、教職員の協力が必要です。「教室」が「職員室」に変わっても、連携の大切さは変わりません。教職員が力を発揮できる環境になっているのか、そして、その力が児童の健やかな成長につながっているのか、自問自答しながら、これからも職員室の担任として、学校の教育力向上に努めて参ります。



「日々の積み重ね」

泉崎村立泉崎中学校
教諭 佐藤 克哉



泉崎中学校に着任して一年が経とうとしています。着任時は不安を抱いていましたが、それを打ち消してくれたのは、子どもたちの素直さでした。現在は、子どもたちをより成長させたいという思いが私の原動力です。学校生活では、結果よりも「とりあえずやってみよう」と声をかけています。成功や失敗の経験を積み重ねて挑戦を恐れない子どもたちを育てていきたいです。これまでご指導いただいた多くの方々に感謝の気持ちを忘れず、私自身も結果を恐れず様々なことに挑戦し続ける教師を目指していきたいです。



「褒め言葉のシャワーを」

福島県立西郷支援学校
教諭 坂牧 朋奈



「いいね。」本年度を振り返ってみて、私が一番多く言っていた言葉です。1年間、初任者研修に参加したり、先生方の授業を参観させていただいたりした中で、私が強く感じたことが子どもたちを褒めることの大切さです。教師の称賛や励ましの言葉掛けで、子どもたちが「頑張ろう」「自分の力でやってみよう」と前向きな気持ちになっている姿をたくさん見ました。教師として学ぶことはまだまだありますが、これからも子どもたちの良さを見つけ、子どもたちに寄り添った声掛けができるよう研鑽を重ねて共に成長していける教師を目指したいです。

【令和4年度事業取組校紹介】

今年度も各種事業推進にあたり、以下にご紹介する各学校にご協力いただきました。ありがとうございました。

- ふくしまの学校“キラリ”魅力化・特色化プロジェクト
AI時代を生き抜く読解力向上事業
ふくしま外国語推進リーダー（本務校）
 小中英語パートナーシップ事業（拠点校）（協力校）
 道徳教育総合支援事業
 キャリア教育推進事業（モデル校）
 ふくしま「未来の教室」授業充実事業（実践校）
 次世代のためのメディアリテラシー育成事業（実践校）
 理数教育優秀教員活用事業（配置校）（算数・数学）（理科）
 スペシャルサポートルーム実践校
 コミュニケーション能力育成事業（モデル校）
 - ふくしまの未来を拓く産業人材育成事業「専門高校生による小中学校体験学習応援事業」
（体験校）
（実施校）
 - “ひがしらかわ”輝くふる郷体験事業
- 塙町立塙小学校・塙町立笹原小学校・塙町立塙中学校
 白河市立みさか小学校・矢吹町立矢吹小学校
 棚倉町立棚倉小学校・西郷村立西郷第一中学校
 西郷村立米小学校・西郷村立西郷第一中学校
 西郷村立熊倉小学校・西郷村立羽太小学校
 中島村立中島中学校
 棚倉町立棚倉中学校
 矢吹町立善郷小学校・矢吹町立矢吹中学校
 白河市立表郷小学校・白河市立表郷中学校
 塙町立笹原小学校・白河市立表郷中学校
 白河市立白河第二小学校・白河市立白河第二中学校
 白河市立白河第二中学校・棚倉町立棚倉中学校
 白河市立白河第二中学校
 棚倉町立社川小学校・棚倉町立高野小学校
 白河市立東中学校・矢祭町立矢祭中学校
 塙工業高校・塙明高校
 棚倉町立棚倉小学校・社川小学校・高野小学校・近津小学校
 塙町立塙小学校・笹原小学校・矢祭町立矢祭小学校
 鯨川村立鯨川小学校



県南教育事務所発行「県南社教 TIMES」及び「学校教育課通信」において取組の一部を紹介しています。
 【県南教育事務所Webページ】 <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/70310a/>